

令和6年度 第1回 釜石市男女共同参画推進協議会開催結果

1. 日 時 令和6年8月29日（火）14:00～15:25
2. 場 所 第4庁舎3階 第7会議室
3. 出席者等 <出席委員7人>
赤崎幸子委員、市川淳子委員、浦嶋博幸委員、小菅篤仁委員、万城目千佳代委員、谷藤太郎委員、山本理悦子委員
<市側出席者>
小野共市長
総合政策課男女共同参画室室長 菊地 美幸
総合政策課男女共同参画室室長補佐 正木 佳恵
総合政策課男女共同参画室主任 中畑 圭介
4. 経過・結果 新たに委員を委嘱した谷藤委員に委嘱状交付を行った。その後別紙次第のとおり、市長挨拶後に下記の議事について質疑応答、意見交換を行った。パートナーシップ・ファミリーシップ制度導入については、現在検討している案で進めていくことで概ね了承された。

【主な発言は以下のとおり】

- ・令和5年度事業実施結果及び令和6年度事業計画について

【山本委員】DV防止啓発活動について、市民ホールをシンボルカラーであるパープルカラーにライトアップするとある。毎回お願いしているが、3月の世界女性デーにもミモザカラーへのライトアップをお願いしたい。

【事務局】ミモザカラーへのライトアップについては、以前にもお話いただき市民ホールにも確認しているが、色を追加することが難しいとの回答をいただいている。ホールが建設された際に入れた色が基本となっているとのこと。市民ホールで色を増やせるような機会があれば、その時にはミモザ色を増やしてほしいということを引き続きお願いはしていきたい。

【浦嶋委員】この会議について、前回の会議で一つ一つの事業評価ではないと仰っていたが。

【万城目会長】実施してきたことについて今後のアドバイスだったり、そういったことを話し合う、今、釜石がどんな現状なのかということをも市民の目で話し合いができる場所と捉えている。一市民として。そこを男女共同参画の目線に振りかえていくという場としてご意見をいただきたい。

【事務局】点数化して評価していただくという方法はとっていないが、この資料を見ていただいて、こういう工夫をしたらどうかとか、行政だけの考えではなくて、皆さんからご意見をいただいて反映できるところは反映していきたい。いただいた意見から市側もできることを考えていくということになる。

【浦嶋委員】そうであれば、やはりもっと若い方の意見を取り入れたほうがいいのではないかと思います。小中高でいろいろな事業もやっているのでも、子ども達の意見も吸い上げて入れら

れば凄くいいのではと思う。

【事務局】小中高校生に直接アンケートをとったことはないが、デートDV関係等講座を実施した時に講座に関してのアンケートは行っている。男女共同参画ということに対しては、まだ意見を貰ったことはないので、今の計画の中間年の年で考えていきたい。

【浦嶋委員】現状よりも、今後10年20年見据えた時に、子ども達の意見をもう少し反映できるような会議であればいいと思う。

【事務局】セミナーに関係したアンケートしかとっていないので、それに追加してやる方法もありかと思う。

【浦嶋委員】ディベートでもいいと思う。子どもはいい意見を持っている。毎日学校に行っているからだが、普通に意見を言える。こういう会議にも来てもらうことも全然いいことだと思う。

【市川委員】今年度の4月からこども家庭センターが設置されたことにより、そこでの今後の業務の充実が新規事業の軸になっていくのではという期待がある。

【事務局】こども家庭センターの方とも協議して委員の皆さんにもお出しできるようなものを作りたい。

【小菅委員】新しい計画は上手くまとめられて進められているようだが、指標一覧のパーセンテージの部分で数値の出し方について、何人が分母でどういうところでアンケートを取るかというデータの根拠も記載したほうがいい。分かりにくい箇所もあるので次回の資料から付けていただきたい。

【事務局】次回の資料から対応する。

【山本委員】資料2の19ページ、No.7の国際理解を支援する講座について、日本語講座が記載されていない。令和5年度事業結果には記載されているが、令和6年度事業に記載されていない。実際は今年度も行っている事業と思うので担当課に確認をお願いしたい。

【事務局】担当課に確認して後日連絡したい。

・パートナーシップ、ファミリーシップ制度について

【小菅委員】対象者について、事実婚を対象としている市としていない市があるが、対象としていない市はどのような不都合やどのようなデメリットがあって対象としていないのか。

【事務局】各自治体の考え方で、あくまでも性的マイノリティを基本とする考えで、性的マイノリティなど少数の人を救うといった視点で進めたという自治体もある。また事実婚はある程度、法的に守られている部分もあり、相続権や税控除は対象とならないが、社会保険や年金の部分など、ある程度法律婚と同等の取扱いをしているものもあるので、そういった点も考慮したものと思われる。ここは自治体の考え方によるもの。当市では、多様性といった観点から、サービスを受けられる間口を広げるといった意味でも今回事実婚も対象に含めたほうがいいのではないかという考えとなった。

【小菅委員】制度上の整合性や不都合なことが起こる可能性があるといったことで、対象者を選択している市があるのかと。間口を広げる面で対象者を広くするのはいいと思うが危惧しているのは、そうじゃない市があるということは不都合が起こる可能性があるのかと思った。そういった不都合があるけど、釜石市はこれを選択するという話になるのか、特に対象としたことで不都合が生じないということで考え方の問題となるのであれば対象にしたほうがいいと思う。

- 【事務局】法を超える対応とはならないので、特段大きい不都合はないものと捉えている。今までも色々な手続きをとれば認められてきたというところを市が証明を出すことで手続きがスムーズになるほか、受けられるサービスが拡大されるといったもの。
- 【事務局】県内の申請件数としては、盛岡市が16組、一関市、宮古市、大船渡市がそれぞれ1組となっている。姓を変更したくない方だったり等様々なケースが考えられる。
- 【万城目会長】生まれた時から遺伝子的なもので持っていることもあるし、釜石市だから、田舎だからいない、とかそういったことではない。今は事実婚に関しても男性と女性だから籍を入れればいい、というような単純な考えではない世の中になってきている。やはりその部分を幅広く捉えるということで良いのでは。
- 【山本委員】一関市が最初に導入してくださったが、なぜ釜石市も早く導入しないのかと質問したことがある。でも、今見ると周りの状況が見えてきて、辺りをみて導入した結果、それを利用したい人達にとって便利なものが増えればいいと思うので、よろしく願いたい。
- 【万城目会長】メリットやデメリットについても、進めていって分かることもあるのでは。利用する人が増えてきたときに、ここが足りない部分だとか、意見が出てくるのだと思う。まずは市民の人達の中で困っている人がいるのであれば、そこをフォローしていきたいというのがこの制度だと思う。
- 【市川委員】当事者の方だけではなく、市が導入に大きく踏み切ることによって、当事者でない方達の理解の推進に繋がることになる。そこに対して多様な生き方や一人一人の人権の尊重が基本ベースになってくるのでは。そういうベースができたときに、始めて当事者の方達がカミングアウトしてこの制度を利用しやすくなるという方向性があるので、制度を作ったからすぐ利用するという期待感ではなく、長い目で見るという姿勢が大事だと思う。そういう意味では今年度導入を目指していくことに意味があるので、頑張ってください。
- 【事務局】制度があるということで、だんだんに当事者が隠さなくてもいいんだ、周りの人もこういった制度があるということは、当たり前なことなんだと捉えていただければ。双方、皆が暮らしやすい社会になることが一番いいことだと思う。
- 【市川委員】性のマイノリティは思春期のお子さんが向きあった際、自分の性自認を確認する時に確実に自分の意思とは違って来るなど、望んでいないのに男性の体になってくる、女性の体になってくる、その不具合で精神的に追い詰められるといったことになる。将来的には相談窓口があって制度ができていれば、安心して相談できる。自分は可笑しくないんだ、自分は自分なんだということが主張できるのだと思う。もしベースができたら浦嶋委員が仰ってるように子ども達と話し合いというのも教育委員会だけに一任するのではなく、大きな窓口として市として取り上げていくことも必要なのではないかと思う。
- 【浦嶋委員】ある自治体での取組だが、学校に「自分は性的マイノリティだ」と名乗られた方が来て、自分はこういったところで困ってきた、苦勞してきた、差別的なことを受けた、と直接話をされることで、子ども達には印象深いと思う。性的マイノリティは実は歴史的に同じくらいのパーセンテージがあって、要はマイノリティに目を向けるのではなく、質の高いマジョリティにしたほうが守られていくと思う。マジョリティの方が質を高めていかないとなかなか改善していかない。歴史的な流れからいくとマジョリテ

ィの質を高めることが大事ではないかと思う。性的マイノリティの方はこれからもいるので、そうすると今からというより、小さいころからやっつけていかないと変わっていかない。そこに力を入れたほうがいい。

【事務局】市民向け講座でいうと、DV関係のセミナーに併せて、令和4年度から性的マイノリティに関する講座を開催している。たくさんの方が参加している状況ではないが、毎年開催することで裾野が広がっていけばいいと思っている。

【浦嶋委員】内容によると思う。全然わからなかったという子もいる。半面、意識を持ってる子はきちんと聞いている。

【事務局】アンケート結果を見ると、それなりに感じたことを書いている。恥ずかしかったとかそういった感想の子も一定数いるが、感想を見るとそれなりに感じてくれている部分があると思っている。

【万城目会長】パートナーシップ制度、ファミリーシップ制度を取り入れることによって、市としていろいろな方をフォローしていきたいんだということを意識として、市民に向けてということが必要不可欠だと思う。スケジュールを見れば3月まで緻密に組まれており大変だと思うが頑張ってもらいたいと思う。

【赤崎委員】短い期間で進めるのは大変だと思うが、釜石市ではどのサービスについて対象とするのかということは決まっているのか。

【事務局】今、各課に照会を出しており、今後は個別に調整が必要だと感じている。

【赤崎委員】実際に他の市町村でこういうサービスをやっているけど、うちの課でできるのか、という聞き方なのか、それとも何ができますか、というような進め方なのか。

【事務局】現在他の市町村ではこういったサービスを対象にしている、といったところから協議し広げていくことになるのかと思う。

【谷藤委員】制度の導入に特に反対意見はないが、先ほど皆さんが仰ったように子ども達にも関わることなので、導入した時は学校や保護者にも周知してほしい。学校では他の人と違うことですぐ馬鹿にしたり、いじめられたりすることに繋がる。自分達の世代だと当たり前と思うようになってきているが、自分の親の世代の理解も必要だと思う。

【万城目会長】今日聞いた意見も参考にしながら今後、内容をまとめて進めていただきたい。